

《2016年～2017年》カトリック教会の暦（典礼暦）

（ 灰の水曜日・四旬節 ）



待
降
節
降
誕
節
年
間
四
旬
節
聖
週
間
復
活
節

2016年 11月 27日

2016年 12月 24日

2016年 12月 25日

2017年 1月 9日

2017年 1月 10日 年間第1主日

2月 28日 年間第8主日

2017年 3月 1日 灰の水曜日
(大斎・小斎)
四旬節第1主日
↓ 四旬節愛の献金

4月 2日 四旬節第5主日

2017年 4月 9日 受難の主日(枝の主日)

4月 13日 聖木曜日(主の晩さん)

4月 14日 聖金曜日(主の受難)

4月 15日 聖土曜日／復活徹夜祭

4月 16日 復活の主日



3月1日は「灰の水曜日」。この日から4月16日の復活の主日の前日の「聖土曜日」までの40日間（日曜日を除く）「四旬節」に入ります。

四旬節・・・キリスト教の最も重要な典礼歴である復活祭を迎えるための準備の期間を四旬節と言います。復活祭に洗礼を受ける洗礼志願者の準備の最終期間であると共に、すでに洗礼を受けたキリスト者も初心に帰り 祈り・犠牲・愛 の行いをもって回心し、キリストの復活を迎えます。四旬節の40日間は、キリストがヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられたのち、荒れ野に向かい40日間断食されたことに因みます。

灰の水曜日・・・灰の水曜日のミサでは、去年の「枝の主日」で祝福された棕櫚（しゅろ）やオリーブの枝を燃やした灰を司祭は信徒一人ひとりの額にかける「灰の式」が行われます。

断食、大斎、小斎・・・断食については、現在では完全に食事を断つというよりも、十分な食事をひかえることと考えられていて、以下のように「大斎・小斎」があります。大斎と小斎を守る日は**灰の水曜日**と**聖金曜日**（復活祭直前の金曜日）、小斎を守る日は祭日を除く**毎金曜日**です。

大斎——1日に1回だけの十分な食事とそのほかに朝ともう1回わずかな食事をとることができ、満18歳以上満60歳未満の信者が守ります。

小斎——肉類を食べないことですが、各自の判断で償いの他の形式、とくに愛徳のわざ、信心業、節制のわざの実行をもって代えることができ、満14歳以上の信者が守ります。

（大斎も小斎も、病気や妊娠などの理由がある人は免除されます）

（カトリック中央協議会 HP より）

四旬節愛の献金・・・教皇は毎年、**四旬節**に向けてメッセージを発表し、キリストを信じるすべての人が四旬節の精神をよく理解して、回心と愛のわざに励むよう呼びかけます。この呼びかけにこたえて日本のカトリック教会は、虐げられ、差別され、見捨てられ、いのちの危機にさらされている人たちとの共感を大切にしよう一人ひとりに訴えるとともに、四旬節中の「愛の献金」を奨励しています。この「愛の献金」は、カリタスジャパンを通して海外諸国と日本各地に送られ、難民や孤児、そして、貧困、失業、飢餓などに苦しむ多くの人々のいのちを守るために、また彼らの自立を助けるために使われます。

（カトリック中央協議会 HP より）

